

令和2年度 第2回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和2年11月9日（月） 午後1時30分～3時
場 所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 303研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
河野委員、西條委員、指田委員、塩沢委員、高橋委員、田口委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
稲垣課長、新井課長補佐、井上副主査、大塚職員

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 令和2年度事業報告（4月～10月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（河野委員） 絵本講座はどんなスタイルでやったのか。

（新井補佐） 参加者の自己紹介のあと、講師から男女共同参画を考えるような絵本を3冊読み聞かせをしてもらい、参加者が印象に残っている場面などを発表した。

（田口委員） Zoom講座は登録団体会員、企画委員が対象だったが、新型コロナウイルスの影響でZoomは普及しており、対象者をもっと広げる予定はあるか。

（新井補佐） 今のところ一般の方を対象に実施する予定はないが、実際にZoomで講座を行う場合は、文書などで説明して対応したい。

（塩沢委員） 満足度75%は低い。講座室にインターネットが使えないということだが、講座のとき一時的にでも使える環境があってもよいと思う。

全体を見ると、受講者の年齢は高めなので、全館は無理でも講座のときだけでもインターネットの環境があれば、もう少し講座の内容も変わってくるのではないか。

普段やっている活動の中でも、ネット上のデータを使う活動が増えてきているので、Wi-Fiを使えるようにしてほしい。

（新井補佐） 今後、アルザでも東京の講師などとのやり取りもでてくると思うので、Wi-Fiを利用したいと考えているが、講座の参加者20人がパソコンを持ってきて、Wi-Fiを使える環境をつくれるかどうかは研究していきたい。

（西條委員） Zoom講座は、Zoomである必要はあったのか。参加者の年代が高く、ガラケーの方もいると、Zoomを知らなくても困らないので、LINEやFacebookなどSNS全般の講座の方がよい。Zoomでホストのやり方を教えるのは大変なので、LINEでグループをつくれれば顔を見て話ができるといった簡単にできる方法を紹介した方が実践的でないか。アルザがWi-Fiを整えてパソコンを貸すというのは現実的ではないので、いろいろなSNSの中からチョイスできるような講座でもよいのではないか。

（指田委員） アンケートのフォーマットは統一しているのか。また、満足度はなぜこのような表記なのか。Zoom講座の満足度は75%だが、残りの25%はどこに評価をつけたのか。

- (新井補佐) フォーマットは講座により違うが、満足度の問いは統一している。「満足」「まあまあ満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階で丸をつけてもらっている。集計方法も統一して、「満足」を「まあまあ満足」と答えた割合としている。昨年度までは、「満足」100%、「まあまあ満足」75%、「普通」50%、「やや不満」25%、「不満」0%としており、「不満」が一人でもいると左右されるため変更した。
- (大塚職員) Zoom 講座は、「普通」が2名、「やや不満」が2名だった。
- (指田委員) 不満足という人がいたからといって恐れる必要はない。講座はみんなから好かれるものではなく、何を学びとってもらうかである。特にアルザであれば、ジェンダーや男女共同参画、DVのことを知ってほしいということがあると思うので、どういうふう理解されたか、逆になんでそこが理解されなかったのかなどを知ることが大事である。どこが不満足だったのかを消し去らない方がよい。
- Zoom 講座では、講師からどんなジェンダーの話があったのか。
- (大塚職員) 今回は手法を学ぶことがメインだった。今後、Zoom での男女共同参画の講座に参加できるよう企画した。
- (西條委員) 満足度の表現の仕方については、5段階の数字をそのまま見せてもらったほうがいい。無理をして何%とすると、中身がわからなくなる。「満足」の人はどういう点が満足だったといった資料をそのまま出してもらった方が話しやすい。
- (新井補佐) 次回からの資料作りの参考にさせていただく。
- (高橋委員) 相談に携わる方のための講座は相談者を対象にしているが、DVと虐待といった一般的な内容が適切なのか。ニーズに合っているのか。もっとプロフェッショナルの方を対象に特化してもよいのではないか。
- (井上副主査) 参加者は、病院勤務、民生委員、学校関係者など様々だが、満足度は高かった。講師の選定は共催の「フェミニストカウンセリングセンターまど」が行っているのご意見を伝えたい。
- (塩沢委員) 相談者のスキルアップのためのものと、相談を通して見えてきたものを一般を対象に広めていくものがある。今回はどちらなのかわからず、私は相談に関係していないので参加をためらった。もう少し性格付けや対象をはっきりした方がよい。
- (新井補佐) この講座は相談に携わっている方を対象にしているが、一般の方を対象にしたものも考えていきたい。
- (河野委員) 間口の広い、誰でも参加できる講座に利点を感じる。相談だけを仕事にしている人は少ないと思うし、専門にやっている人はそこで研修があるはずだ。私も相談員をやっていて、講座で聴いたことであればアドバイスできるので、この講座に参加するようにしている。
- (永田委員) 絵本講座は、感染症対策を踏まえた上でも参加者が少なく残念だ。参加人数を増やすことについて知恵の出どころがあるのではないかと。
- アンケートの集計結果で、母数が少ないと一人の極端な意見に引きずられるということだったが、この場ではありのままお話しただけかないと検討しようがないのでストレートな形で出してもらいたい。
- Zoom 講座は、行政が私企業のツールを積極的に使うというニュアンスの話

になるのではないか。

上映会で、映画の内容が男女共同参画とつながらない参加者がいると思うので、映画を紹介するときや、見終わったときに、男女共同参画のこういう視点で映画を捉えてもらいたいといった問いかけをすると理解が深まるのではないか。

(新井補佐) 絵本講座は、子育て中の女性を対象にしたが、新型コロナウイルスの影響で保育をつけられなかったことや、お子さんをお持ちの方は、当時外に出るのが怖いという声もあり、少人数でも開催した。参加者を増やすことは全ての講座の課題である。

アンケートの結果については、次回からありのままお示ししたい。

Zoomについては、今後、安全性も含め勉強していきたい。

上映会は、普段アルザにいらっしゃらない方に参加していただくツールになっているので、男女共同参画について考えてもらえるようなあいさつを心掛けている。

(指田委員) 11月1日の市報のアルザの紹介はタイトルが地味。ほんぼーとは2段組みで見出しを書いている。2段だと20文字くらいなので十分表現できる。2段が無理なら、星マークを入れるだけでも目立つので賑やかになる。見出しが「男女共同参画についての講座」では、違うと思ってしまう方がほとんどなので、タイトルは「DVとジェンダー」だけではなく、「このコロナ禍を生き抜くためのDVとジェンダー」など、話題のフレーズと講座をつけて載せるのも集客の方法の一つである。アンケートで市報の反応があまりなかったら、出さなくてもよい。

(新井補佐) 市報を見ていらっしゃる方は多い。いろいろな制約があるが、いただいたアドバイスを参考にしていきたい。

(高橋委員) 相談に携わる方のための講座の参加者で「その他相談従事者」はどんな方か。

(井上副主査) 社会福祉協議会の方やオール職員の職員、病気の会の方などである。

4 その他

(1) アルザフォーラム2020について

(事務局) 開催状況説明

(2) その他

(事務局) 企画委員の任期について、来年度の募集から任期の上限を10年とすることと、第4次新潟市男女共同参画行動計画について、現段階における「アルザにいがた」に関する改定予定箇所について説明。